

12-13 景気循環が労働者の自己解放の力を与える

「……近代の産業は、沈滞、繁栄、過熱、恐慌、窮境、という大きな局面を経て周期的な循環を描き、それにもなつて賃銀が上下し、また賃銀と利潤とのこうした変動に密接に照応して雇い主と労働者とのあいだのたえざる闘争が生じるのであるが、こうした局面の交替がなければ、大ブリテンと全ヨーロッパの労働者階級は、意気沮喪し、意志薄弱で、疲れきつた、無抵抗な大衆にとどまり、古代ギリシャやローマの奴隷と同じく、自己の解放をなしとげることは不可能となろう。……」

⑨-[347]全部 P139 (マルクス『ロシアのトルコに対する政策——イギリスにおける労働運動』『ニューヨーク・デイリー・トリビューン』1853. 7. 1付)

*青山のコメント

景気循環にともなう賃金の上下、賃金と利潤の変動、これらに照応しての「雇い主」と「労働者」とのあいだのたえざる闘争が労働者に自己解放の力を与える。しかし、現代の日本は「産業の空洞化」によって、「健全」な資本主義の特徴である「局面の交替」すらできなくなり、閉塞感が労働者を支配している。だから、「空洞化」の持つ意味を、労働者に徹底的に曝露して、たたかうエネルギーを引きだす努力を一層強めることが必要である。